

保健指導情報システムによる活用と評価

むなかた

○宗像 ゆかり、石井 佐登美、遠藤 光恵、黒須 香子、国分 真理子、和泉 政子
今泉 美由紀、嶋田 恵子、渡部 敬、高橋 正宏（郡山市健康振興財団）
大楠 陽一（東海大学医学部）

【はじめに】

健康診断の結果をデータベース化しカラーグラフに表示する事で保健指導を効果的に行える。この指導を通じて受診者の自覚と行動変容を促しライフスタイルの改善へと結びつけている。今後もシステムをより充実させ活用していく事で疾病の予防に寄与すると考え、当施設での取り組みについて報告する。

【システムの活用】

当施設の事業所健診システムは東海大学医学部医用工学情報学教室との共同開発として、平成2年より始まった。結果出力、集計システム、病名登録システム（病歴・家族歴）保健指導画面、フォローアップシステム、ライフスタイル入力等徐々に機能を追加してきている。端末は「NEC PC-9821NX」のノート型パソコンで施設内はオンラインでUNIXホスト（NEC EWS4800）と接続される。個人データをノート型パソコンに転送し施設外での使用も可能である。

1-① 保健指導画面

保健指導は、健康診断受診当日の検査終了時に全受診者を対象とした個別指導である。指導画面は「受診履歴」「データ」「時系列グラフ」「レーダーチャート」の4種類がある。受診者の過去の全検査データと精検受診状況が登録されており必要により画面を展開する。

（図1、2、3、4）

1-② アンケート調査

保健指導に対する受診者の反応を確認する為に郵送による自記式アンケート調査を実施した。対象は、飲酒や肥満等の生活習慣との関連が強く示唆される肝機能異常者127人で、66人から回答を得た。（回収率52.0%）自分のデータ

に関心があり、保健指導を積極的に受け入れている人が多かった。更に、62.1%が健診後に何らかのライフスタイルの改善を試みていた。

（表1）

2 フォローアップシステム

フォローアップ機能をシステム化し、精密検査の受診状況の一覧票や、各科別紹介状と受診勧奨の手紙を自動出力している。確実性や事務量の軽減に大変効果的である。

3 ライフスタイル入力

「生活習慣病」の予防を目的としてライフスタイルのデータベース化を計り、H11年4月より入力を開始した。（図5）

【まとめ】

アンケート調査の結果からも、時系列グラフを用いた保健指導は、受診者の関心が高く指導の受け入れも良好である事が確認された。今年度からは更にライフスタイルの入力を開始している。このことによって、ライフスタイルと健診データの関連をよりはっきりと受診者に伝えることが可能となると期待される。今後システムを充実させ、よりよい活用をしていく為に、ライフスタイルの分析をしていく予定である。

当施設の保健指導時の問題として、血液検査に関しては、結果が出るのが午後になりリアルタイムでデータの説明ができない点がある。これを補う為に、必要な方へは時系列グラフとコメントを作成し書面による指導を行っている。又、ノートパソコンを持参しての「訪問指導」も実施しており、施設外での活用も可能である。訪問の際には精密検査受診の啓蒙も行っているが、本人の価値観、職場環境、家族との関わり等課題は多い。